



四條畷市議会議員

ながはた

長畑ひろのり News



発行：2010.06.01

- 市政報告 06 月号 -

vol.036

ご意見は次の e メールアドレスへ
公式HP & ブログは次のURLへ

sky@nagahata.jp

phone：072-878-3205

http://nagahata.jp

fax：072-877-1194

こんにちは、市政報告です

議員になってから3年間所属していた会派「市民連合」を抜け、議員四年目を迎えた5月より一人で議員活動を行っています。この機会に、私の四條畷市に取組む政治姿勢の基本となる考え方や活動を報告させていただきます。

「五つの提案」について

今までの議員活動の基本になるのが、四條畷市を立て直すために私が4年前に市長選挙で訴えた五つの提案です。内容につきましては、このチラシの裏面に配布したチラシの一部をそのまま載せていますので、ご一読下さい。

提案は『心のこもった教育』『愛情豊かな医療・福祉』『夢のもてる財政』『生活感のある地域の分権』『誇りある歴史文化』の五つです。この五つの提案全てに共通しているのが、小学校区単位の地域コミュニティの確立です。何度か市政報告チラシにて載せていますが、改めて簡単に説明します。

私が提案しているのは、7つの小学校区か、もしくは、4つの中学校区を単位とした地域コミュニティを作り、そこで出来た各単位コミュニティに対して、市職員がサポートすると共に予算も付け、地域が主体となってまちづくりを行う仕組みです。区長制度や自治会制度を単位コミュニティに移行するものではなく、あくまで別組織として立ち上げます。

市長は、平成21年度市政運営方針により区長制度を廃止し自治会制度へ移行すると言い出したかと思えば、年度途中で区長制度の廃止は撤回。次の平成22年度市政運営方針では、区長制度に一切触れず地域コミュニティの醸成について地域コミュニティあり方検討会で議論を重ねるとのこと。

私は区長制度をどうするのかより、まず地域コミュニティ制度を軌道にのせる事が重要と考えますが市は違うようです。



次に提案のなかの『心のこもった教育』に関してですが、私は今も市として教育に力を注げば、本市に人が集まると信じていますし、そういう事例もあります。

議員になった一年目、すぐ動いたのが2学期制移行の中止でした。制度に関してメリット、デメリットの両方あるのは理解していましたが、移行への過程を調べますと、教育委員会で議論もないまま当時の教育長の考えだけで2学期制実施へ動くことがわかり疑問を抱きました。しかし、教育長の懲戒免職と言う波乱の中、2学期制移行前年度は終わりました。

しかし、議員二年目、私が平成23年度の新学習指導要領実施まで時間は十分あるのでもっと検討して頂きたい、時期尚早だと訴えたにもかかわらず、教育長不在のまま2学期制は実施されました。私の力不足を痛感した年度でした。

それでも、新しく赴任された現教育長が、移行したばかりの2学期制を3学期制へ戻すことに取り組み、私の議員三年目には3学期制へ戻り、私の訴えが通じた形となりました。

さて、来年春から教科書も分厚くなり、授業時数の確保が必要になります。全国的にみましても、2学期制導入の主な理由が授業時数確保です。本市が導入したのも、いろいろな理由を当時言われましたが、ポイントはそこだと思います。

そこで、2学期制を導入している学校について、文部科学省の調査結果が出ていますのでパーセントのみ報告します。
2004年度 公立小学校 9.4% 公立中学校10.4%が
2009年度 公立小学校21.8% 公立中学校23.0%と
倍増しています。しかし、一方で夏休みなどの長期休暇を短縮し、授業時数の確保をするところもあります。

2009年度 公立小学校10.5% 公立中学校8.9%で、文部科学省によりますと増加傾向が続いているとのこと。

近隣市をみますと、2学期制を導入していることはなく大東市と枚方市が全小中学校の空調設備が完備していることもあり、昨年度より夏休みの長期休暇を短縮しました。本市も本年度で全小中学校の空調設備工事が終わりますので、来年度以降、夏休みを短縮することが可能となります。そのあたりも踏まえ、今は授業時数確保のための検討委員会を立ち上げ、対策を議論しているのが本市の状況です。

受験生を含め本市の子ども達を、大人のエゴに巻き込んでしまったことが残念でなりません。こういう事にならないよう、常に私は、5年、10年、20年先を見定め、四條畷市民の為に積極的に活動して行きます。

心のこもった教育

—heartly education—
心ある教育

子どもが楽しく、親がうれしい
学校教育づくり

—今、市が本格導入しようとしている2学期制度は、みなさんが感じているように、他市でも評判が悪く、文部科学省も方針の転換をしようとしています。この過去のものになっている2学期制度をこれから導入するような時代錯誤の教育観の原点は何でしょうか。児童生徒やPTAへの相談もなく、トップダウンで決めることが、間違いにつながっているのです。すぐにでも再検討し、未来を担う若者や若い家族のために、安心と安全を基本にした、楽しい学校教育の体系をつくりあげなければなりません。

—地域活動の単位を学校として、コミュニティ的な活動を活発にしていく事を提案しています。学校教育と家庭教育の間に社会教育が昔はありました。四條畷市の中でも地域特性があります。その地域にあった活動の一貫に社会教育が作られると考えています。地域分権の考え方と同調させて、市民みんなのアイデアを導入し、活気のある社会教育の流れを作っていくことが大切であると考えています。行政のお仕着せではない地域運営の仕組みの一端です。

愛情豊かな医療・福祉

—kindly welfare—
愛ある福祉

将来構想のある緊急医療体制

—四條畷市の救急医療体制はたいへんお粗末な状況です。他市に頼っている状況であるのはご存知でしょう。単に医療機関に協力を依頼し、救急病院を整備することだけでなく、実態を見極め、将来構想を打ち出すことが大切です。

元気な高齢者に未来を創る場作り

—昔と違いこれからは、元気な高齢者の方が多くなってきました。別項でもありますが、小学校区単位の地域行政を活発にし、いろんな場面で高齢者の智恵とノウハウを生かし、市民活動への参加の場面を作っていくことを考えています。介護福祉の面でも、皆が協力できる体制づくりが大切だと考えています。

夢のもてる財政

—vision of balanced finance—
夢ある財政

透明な行政で、財政一新。

—時代に合った現代的な経営感覚でまちづくりを推進することを提案します。トップダウン型の不透明な経営では、小さな会社でも難しくなっている時代です。ガラス張りの財務ができることが、現代経営でも求められる社会にあって、市民のための行政に隠し事は許されないと考えています。

未来に禍根を残さない財政方針の転換

—世代間の公平という考え方で、市債を増やしてきた現市政です。多少の事ならわかりますが、今の市債432億円は市税65億円の7倍にあたります。若者の未来負担が大きくなるはずがありません。方向修正しても市財政再建には時間がかかります。まして今の市運営が4年続けば、取り返しがつかなくなるということ。（破綻した夕張市の場合50年かかると言われています）

生活感のある地域の分権

—realizable decentralization—
感じる分権

市民参画型の生活に合致した小さな行政で財政改革

—国政での地域主権の流れは、四條畷市の財政にどう影響するかも大切ですが、私たちは行政の様々な予算が見えていません。道路を直すのも、その地区の状況に合わせた順番があるはず。それを決めるのを7つの小学校区に分かれた地域分権を進めた方が、使い方に実感を持てるのではないのでしょうか。大きな計画は市がしても、地域のきめの細かなサービスの判断を地域に任せることで、生活を感じる政策になるのです。行政のお仕着せで、一部の人が運営するのではなく、ガラス張り、権力や特権ではない地域運営の仕組みを考えています。この制度を実現することにより、小さな行政組織で市運営をし、財政改革にもつながると考えています。

誇りある歴史文化

—proud cultural asset—
誇れる文化

市民憲章を実現する自然歴史文化を誇れるまちづくり

—ロハス(LOHAS)という言葉をご存知ですか？自然の一部として我々人が在りし、自然の流れや恐ろしさを体で感じながらの生活スタイルをしようという運動です。我々四條畷市は古代から、豊かな自然に恵まれ、人が楽しく生活をしてきた地域です。そこに歴史文化があり、多くの文化財を持っています。我々の時代を考えるためにも、自然な環境整備をしていくことが大切であると考えています。政治も経営も生活も、人と金ばかりを見ているだけではだめです。

今回の長畑ひろのりNews36号の裏面ですが、4年前の四條畷市長選挙時に、長畑ひろのりが訴えた多くの主張を“なわてさわやか市民の会”の方が5つの提案としてまとめ、市民の皆様へ配布したものです。

この当時発表した5つの提案を、長畑ひろのりは常に市政運営の基本とし、議員活動を行っています。

2006年7月8日発行の

なわてさわやか市民の会広報誌“さわやか未来宣言3号”より